

ご好評につき  
オンライン  
開催決定!

この郵便が届いた  
皆様へ

この度は無料で本レポートをお送りさせていただきました  
こんなお悩みございませんか?

- ✓ 既存園で対応しきれない発達障がい児や、グレーゾーンのこどもが増えてきた
- ✓ どんなこどもでも受け入れていきたいが、配置できる職員数もあり受け入れに限界がある
- ✓ 集団活動や午睡が苦手な児童があり、他の児童も引っ張られてクラスがまとまらない
- ✓ 発達に凸凹のあるこどもたちにもっと関わりたい、自分たちでもっと支援をしたい

# 保育園・こども園・幼稚園で 発達の気になるこどもに 寄り添った 個別支援を実現!

学校法人勝愛学園 副園長 **大澤 弘子氏** (一般社団法人全国認定こども園連絡協議会 理事)

学校法人  
**勝愛学園**が

01

これまで十分な対応をしきれなかったこどもたちに  
1対1の個別支援も提供できるようになった

02

職員の業務負担を軽減しながら、地域のあらゆる  
こどもたちを受け入れられる体制が整った

03

こどもの個性・特性を尊重しつつ、  
クラスがよりまとまるようになった

04

これまで園で培ってきた**幼児教育プログラム**を  
さらにこどもたちの為に活かせるようになった



これらを実現できた理由は、中面にて詳しく解説します

Web  
開催

2024年

5月 **22日**・**30日**

2024年

6月 **11日**・**24日**

13:00~16:00(ログイン開始 12:30~) ※講座内容はすべて同じです。ご都合のよい日時をおひとつお選びください。

参加  
申込みは  
こちらから



主催



サステナブルグロースカンパニーをもっと。

**Funai Soken**

児童発達支援・放課後等デイサービス 新規参入セミナー

お問い合わせNo.S111088

船井総研セミナー事務局 E-mail : seminar271@funaisoken.co.jp

株式会社船井総合研究所 〒541-0041大阪府中央区北浜4-4-10 船井総研大阪本社ビル ※お問い合わせの際は[セミナータイトル・お問い合わせNo.・お客様氏名]を明記の上、ご連絡ください。

当社ホームページからお申込みいただけます。(船井総研ホームページ[www.funaisoken.co.jp]右上検索窓に「お問い合わせNo.」を入力ください。)→ **111088**

# 園の「気になる子」、増えてきていませんか？

- ・発達障がいのある子どもが、ひと昔前より増えたように思う
- ・当はその子に合う支援を提供したいが、今の配置基準では対応に限界がある
- ・午睡が苦手だったり、主活動で一緒に行動ができなかったりして、他の児童もつられてクラスがまとまらない
- ・近隣に児童発達支援に通う児童はいるが、送迎の負担やその支援内容を考えると当は自分の園でやりたい

皆さまの園でもこのようなお悩みを抱えていらっしゃるいませんか？

これから紹介させていただきます 愛媛県松山市で認定こども園を運営する「学校法人勝愛学園」もこれまで上記のようなお悩みを抱えていました。

すでに園では障がいのあるなしに関わらず、脳科学に基づいたこどもたちの発達に必要なカリキュラムを取り入れ、実際にこどもの発達・成長に良い結果が出ていることを実感されていました。

一方で、集団の幼児教育の現場では、十分な個別対応も難しく、より個別対応ができる環境が整えば、もっと発達・成長に繋がっていくのにと考える日々。

そんな中、一昨年12月末に国の方針で園内での児童発達支援・放課後等デイサービスの設置が可能となったため、昨年7月に児童発達支援事業所「ひだまり」を立ち上げました。

本レポートでは、立ち上げの経緯や成功のポイントについて 副園長の大澤 弘子氏にお話をお聞きました。

## 児童発達支援・放課後等デイサービスの立ち上げで園が抱えていたお悩みを解決！

### 成功モデル法人のご紹介

## 学校法人勝愛学園

### 幼保連携型認定こども園 勝愛幼稚園

幼保連携型認定こども園「勝愛幼稚園」は、愛媛県松山市にあり、定員550名の園児が在園しています。

昭和44年に開園し、「強くはばたけ 大きくのびよ」の教育目標のもと、目指す幼児像を「げんきな子、かしこい子、やさしい子、がまんつよい子」と掲げ、21世紀を人間性豊かにたくましく生き抜く日本人に育てたいと願い、幼児教育を推進されてきました。

戸外で思い切り身体を動かして遊ぶことや家庭ではできない様々な活動を感じる存分体験させることを保育の柱として日々保育実践に取り組まれております。

平成24年に旧制度の幼保連携型の認定こども園に認定され、「認定こども園勝愛風の子保育園」を新設し、その後子ども・子育て支援新制度がスタートした平成27年に新制度幼保連携型認定こども園へ移行しました。



### 児童発達支援・放課後等デイサービス ひだまり

幼保連携型認定こども園「勝愛幼稚園」の2階に2023年7月開設したのが「児童発達支援・放課後等デイサービス ひだまり」です。

ひだまりのように温かくやさしい心で、自分らしくしあわせに生きてほしい、そんな想いを込めて 事業所名を名付けられました。

勝愛幼稚園ですでに取り組んでいる柳沢運動プログラムや、くぼたのうけん等を活かしなが、こども一人ひとりの状況に応じた療育プログラムを提供されています。

開設1ヵ月目から在園児5名が利用を開始し、今現在も園内外から問い合わせが続いております。





## 学校法人勝愛学園 副園長 大澤 弘子 氏

1980年学校法人勝愛幼稚園に入職。事務、子育て支援センター長、副園長を経て、2012年幼保連携型認定こども園勝愛風の子保育園園長、2015年より学校法人勝愛学園幼保連携型認定こども園副園長。2023年7月、念願だったインクルーシブの児童発達支援事業所「ひだまり」を開設した。

一般社団法人全国認定こども園連絡協議会理事、認定こども園・子ども子育て政治連盟常任幹事も務める。

## 年々増える 困り事を抱えた乳幼児

ニュース等でも 10人に1人が発達障がいを抱えている等と言われるようになりましたが、当園でも年々何らかの困り事を抱えている乳幼児が増えてきました。

集団活動のペースが合わなかったり、言葉がなかなか出てこなかったり、じっとするのが苦手だったり、体幹が弱くよく転んでしまったり…困り事は本当に様々です。

近隣には児童発達支援や放課後等デイサービスの事業所が増え、当園にもそういった事業所を利用することもたちが増えてきましたが、保育の途中で保護者が迎えに来て、それぞれの事業所に向かうことになる為、環境の変化によるこどもの負担も、また 仕事や家事を切り上げて 迎えに来る保護者の負担も、どちらも大きいと感じておりました。

## もともと園で取り組んでいた

## 脳科学に基づく発達支援

勝愛幼稚園では、約10年前に脳を育て心育てる「柳沢運動プログラム」を、約5年前に人の行動を司る前頭前野を鍛える「くぼたのうけん」を取り入れました。

また 平成24年に開設した「認定こども園勝愛風の子保育園（現 幼保連携型認定こども園 0～2歳児クラス）」では、保育科学者と言われた斉藤公子氏の保育方針を参考にしつつ、保育にも携わってきました。

これらの脳科学に基づいたカリキュラムは、障がいのある・なしに関わらずこどもの発達・成長に良い成果が出ることを強く実感しております。

一方で、集団活動が中心となる幼児教育の現場では、十分な個別の対応が難しいのもまた事実で、個別支援ができればもっとこどもの発達・成長に繋がるであろうと考える日々を過ごしておりました。



柳沢運動プログラムの様子



くぼたのうけんの様子

## 制度改正をきっかけに

## 園内の空き教室に児童発達支援を設置

そんな折、令和4年12月（適用は令和5年4月以降）に認定こども園内でも面積と人員配置基準を満たせば 児童発達支援や放課後等デイサービスを設置できることとなったと知りました。

以前から 個別の支援を提供したいと考えていた私たちにとってはまさに待望の制度改正でした。早速 開設に向けて準備を進めたいと思ったものの、児童発達支援や放課後等デイサービスについては全くの素人で、園内にも児童発達支援や放課後等デイサービスで勤務経験のある職員はおりませんでした。

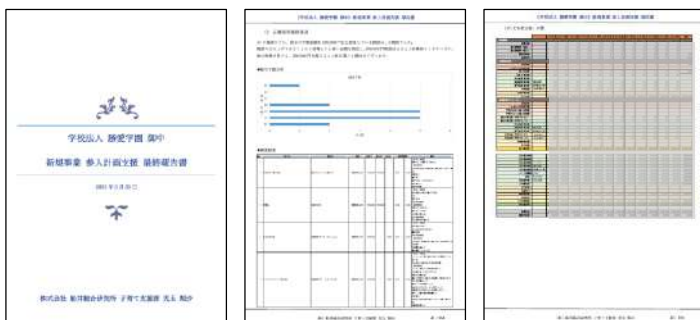
そんな時に船井総合研究所からDMが届きまして、「児童発達支援・放課後等デイサービス 新規開設セミナー」に参加させていただきました。その時ゲストで登壇されていた方も、認定こども園をされていて、その近くに児童発達支援・放課後等デイサービスを立ち上げ、園と連携した療育を実践されていました。

自分たちが実現したいイメージに非常に近く、またセミナー後の個別相談でセミナー中わからなかったことや、不安なことを色々と相談させていただきまして、当時はまだ漠然とでしただけけれども、だいふ実施のイメージが湧いてきました。

ただ 松山市の需要はどうか、そもそも制度や収支がどうなっていくのか、まだ不安がありましたし、少し先の話かとは思いますが学童保育や子育て支援カフェの開設等 色々興味がありましたので、船井総合研究所に「新規事業 参入計画支援」を依頼し、現地にも来てもらいながら、事業を実施すべきかどうかを判断する調査をしてもらいました。

## 開校を決心、

## 準備期間 約3ヵ月のスピード開校



新規事業 参入計画支援 最終報告書（一部抜粋）

3月の最終報告を受け、制度概要や収支のイメージ、設備要件や人員配置等が以前より明確になった状態で、本格的に参入の準備を開始しました。参入についても、初めてのことでわからないことが多いと思われたので、船井総合研究所に「立ち上げ支援」を依頼しました。立ち上げ支援の中では、自治体への指定申請や、療育プログラムの設計、1日のスケジュール、職員採用、利用者募集等立ち上げに関することをすべてサポートいただきました。

一番大変だったのはやはり採用です。「新規事業 参入計画支援」で人件費の相場は調査してもらっていたので、その結果を踏まえて相場をやや上回るくらいの給与にしておりましたが、やはりなかなか問い合わせは来ませんでした。人が決まらないといつまでたっても開設できない、という不安はありましたが、あらゆる求人媒体に網羅的に出すことが重要とのことだったので、教えてもらった求人媒体に（初めて出す媒体も多く、なかなか操作は慣れませんが、そこは教えてもらいながら）一通り出していきました。

そういう風に採用活動を続けていると、なんと卒園児（当園の3期生）から問い合わせがありました。驚きましたし、嬉しかったので、ご縁だと思いたね。無事児童発達管理責任者も決まり、また指導員については新しく採用した職員の他にも、認定こども園から異動してもらったり、兼務してもらったりすることで、準備がスムーズに進みました。

## 園との連携を意識した

## デイリースケジュールとプログラム

デイリースケジュールとプログラムについては、船井総合研究所から色々な事業所の例を教えてくださいましたが、やはり当園としては園との連携、園との接続を意識したプログラムにしたいと考え、デイリースケジュールとプログラムを一緒に設計してもらいました。

「ひだまり」では療育プログラムを「ほっぷ」「すてっぷ」「じゃんぶ」の3STEPに分けています。

通い始めのお子さんは、人見知り・場所見知りが激しいことも多いので、通い始めの頃はまず「ほっぷ」として場所に慣れる、「ひだまり」を好きになってもらうことを目的にしています。「ほっぷ」は基本的に完全個別、指導員との1：1の療育としており、指導員との信頼関係を育むことを大切にしています。



場所に慣れてきたら小集団療育「すてっぷ」に移行します。小集団と言っても、定員は3名に対し、職員は3名以上おりますので、ほぼ1対1の状態になりながらも、お友達との関わり方を身に付けていきます。

「すてっぷ」は10:45～11:30に実施しておりますので、園の主活動を一部抜けて、その子に合った活動を個別に行っています。こども園の活動内容によっては、集団だとなかなかついていけず、参加が難しかったこどもも、「ひだまり」であればその子に合った活動を個別に行うことができます。「楽しかった」「もっとしてみたい」と心からの笑顔で言っているのを見ると、こちらとても嬉しくなります。

療育が終わると、そのままクラスに戻って給食、午睡がある子は午睡、そして保育・教育時間に戻っていくので、クラスのお友達との時間も大切にしながら、その子にあった追加の個別支援を実現できていると思っています。



また、保護者様からは小学校以降の学習についての不安の声もよく聞きますので「じゃんぶ」では小学校の学習に繋がる活動をする予定です。

「じゃんぶ」は、午後の時間を予定しています。こどもの特性によっては、午睡が苦手な教室で時間を持て余してしまったり、他の子を起こしてしまったりということもあります。そういったことには午後の時間に来てもらって、パワーを思いっきり発散してもらいたいと思っています。

## 職員の活躍の場が広がり、

## また 負担の軽減にも繋がった

「ひだまり」の指導員は、認定こども園から異動したり、兼務してもらったりしている職員が多くおられます。

障がい児支援は、これまでの保育・教育とは少し異なる領域ですが、「ひだまり」の療育は認定こども園の保育・教育活動が基本となっていることもあり、これまで培った力を活かしながらも、新しい活躍の場を広げることができました。

また、認定こども園では、こども一人ひとりに合ったアプローチをしたいと考え、実践しているものの、国の基準では3歳児は20：1、4・5歳児は30：1となっているので、やはり個別の発達支援には限界があります。また集団活動になじめない子のフォローを考えると職員の負担も大きくなっておりました。

今回「ひだまり」を開設したことで、クラスをまとめる担任の負担はだいぶ軽減され、保育・教育サービスの質の更なる向上に繋がっていくと確信しております。



## 1ヵ月の療育で、 こどもにもみるみる変化が..

幼児教育に携わっているとこどもの成長に本当に驚かされることが多くありますが、「ひだまり」の開設によって驚くことがますます増えたように思います。

例えば、なかなかこちらの指示が通らなかったこどもが、1対1の個別支援で関わり方を工夫することで、1ヵ月前とは見違えるように話を聞いてくれるようになることもありました。

また療育での様子を担任の先生に随時共有し、クラスでの対応についても一緒に考えています。その効果もあってか、以前と比べてクラスのお友達と一緒に活動している時間も落ち着いて過ごす子が増えてきました。

個別支援ではうまくいくけど、集団のクラスに入るとなかなかうまくいかない（だからかえって大変）ということが個別支援の課題として挙げられることもありますが、やはり園内だからこそ密な連携が取れるので、そういった悩みは今のところほとんどありません。

また午睡が苦手だった子が、午睡をするようになったり..支援の中でうまくエネルギーを発散させてあげることで、こども自身の生活リズムが徐々に整ってきたような感じがあります。

これらは以前から「やった方がいい」「やれたらいいなあ」と思っていたことではありましたが、正直園の中で、限られた職員数で実現するのは難しいことばかりでした。

今回「ひだまり」を開設したことで「やった方がいい」「やれたらいいなあ」といういわば理想の関わり方を、より実現できる体制が組めたことは、本当にこどもにとっても、保護者にとっても、職員にとっても良かったと感じております。まさに三方良し、というところでしょうか。

## 今後の展望について

今は、基本的に在園児で療育を必要としている子に支援を提供しています（もちろん、問い合わせがあれば丁寧に対応させていただいております）。

学校法人としてこれまで培ってきたものもありますので、今は着実に、丁寧に、一人ひとりのお子さんの発達・成長に向き合っていきたいという思いがあります。そのため、あえて広報活動を積極的に行っていません。

ただ、まだ開設して日が浅いものの、療育の効果をとても感じているので将来的には、在園児以外の地域のこどもたちにも療育を受けてもらえるよう、広報活動にも力を入れていく予定です。ホームページ制作会社とのやり取りや、利用者を集めるためのイベント企画や、SNSを通した情報発信等は船井総合研究所に頼りながら、準備を進めています。

また令和6年度は、放課後等デイサービスの本格受け入れや、学童保育の開設等も考えています。法人として事業を多角化させていくことで、これまで提供できなかった支援を提供できるようになる、というワクワク感もあります。課題も多いですが、これまで培ってきたものを大切にしながら、後世に残していくことができるようにしていきたいですね。



# 幼稚園・保育園・認定こども園が 児童発達支援・放課後等デイサービス事業に 参入するValue＝価値とは



## 株式会社船井総合研究所 子育て支援部 リーダー 児玉 梨沙

東京大学教育学部卒業後、株式会社船井総合研究所へ入社。子ども・子育て支援事業全般へのコンサルティングを担当しており、保育園や児童発達支援・放課後等デイサービス、親子カフェ×就労継続支援の立ち上げの他、職員の採用・定着、利用者募集、ブランディング等 幅広いテーマに携わる。市区町村の子ども・子育て支援事業計画の策定等 官公庁業務にも従事。

皆さま、こんにちは！

本レポートをここまでお読みいただき、誠にありがとうございました。

私、株式会社船井総合研究所 子育て支援部 リーダーの児玉 梨沙と申します。

現在 携わっている**幼稚園・保育園・認定こども園は500施設以上、児童発達支援・放課後等デイサービスは30施設以上**で、その他 市区町村の「子ども・子育て支援事業計画」の策定支援等も担当させていただいております。

今回 インタビューさせて頂いた学校法人勝愛学園の児童発達支援・放課後等デイサービスの立ち上げもご支援させていただきました。

今、発達障がい児やグレーゾーンのこども（気になる子）が増えてきており、その支援について悩んでいる事業者がとても多いように思います。よくお聞きするお悩みは次の通りです。

- ・発達障がい児や、グレーゾーンのこども（気になる子）が増えてきた
- ・どんなこどもも受け入れていきたいが、配置できる職員数の都合上 受け入れに限界がある
- ・集団活動や午睡が苦手な児童がおり、他の児童も引っ張られて クラスがまとまらない
- ・近隣に児童発達支援や放課後等デイサービスは増えたが、本当は自分たちで支援をしたい

これらの悩みを今の幼稚園・保育園・認定こども園だけで解決しようと思っても、人手や資金の都合もあり、なかなか難しいことが多いです。そこでご提案させていただきたいのが、学校法人勝愛学園も立ち上げられた「児童発達支援・放課後等デイサービス」への参入です。

## 児童発達支援・放課後等デイサービスとは？

児童発達支援は主に未就学児、放課後等デイサービスは小学生～高校生（18歳未満）を対象にした集団及び個別療育を行う障がい福祉サービスの一つです。

### < 船井総合研究所が推奨する 児童発達支援・放課後等デイサービス事業モデル >

|        | 児童発達支援                                    | 放課後等デイサービス                             |
|--------|-------------------------------------------|----------------------------------------|
| 対象     | 未就学児（0歳児～5歳児）                             | 小学生～高校生                                |
| 定員     | 計 10名                                     |                                        |
| 開所時間   | 10:00～17:00<br>(サービス提供時間は6時間以上)           | 学校がある日：放課後～18:00<br>学校がない日：10:00～17:00 |
| 開所曜日   | 月曜～土曜<br>(地域ニーズや利用ニーズによる、週5日開所や週7日開所の場合も) |                                        |
| 必要人員   | 最低 3名                                     |                                        |
| 必要面積   | 60㎡以上 (建物や地域による)                          |                                        |
| 年間売上   | 3,350万円                                   |                                        |
| 年間営業利益 | 1,100万円                                   |                                        |

## 増える発達障がい児と、障がい福祉サービスの利用者

文部科学省の調査によると普通学級に通うこどもの10人に1人以上が「学習面や行動面」で困難を抱えているとされており、軽度発達障がい児だけでも人口に対する発生頻度は8.2～9.3%とされています。



黒板が書き写せない

忘れ物が多い

数が数えられない

文字が読めない

授業中歩き回る

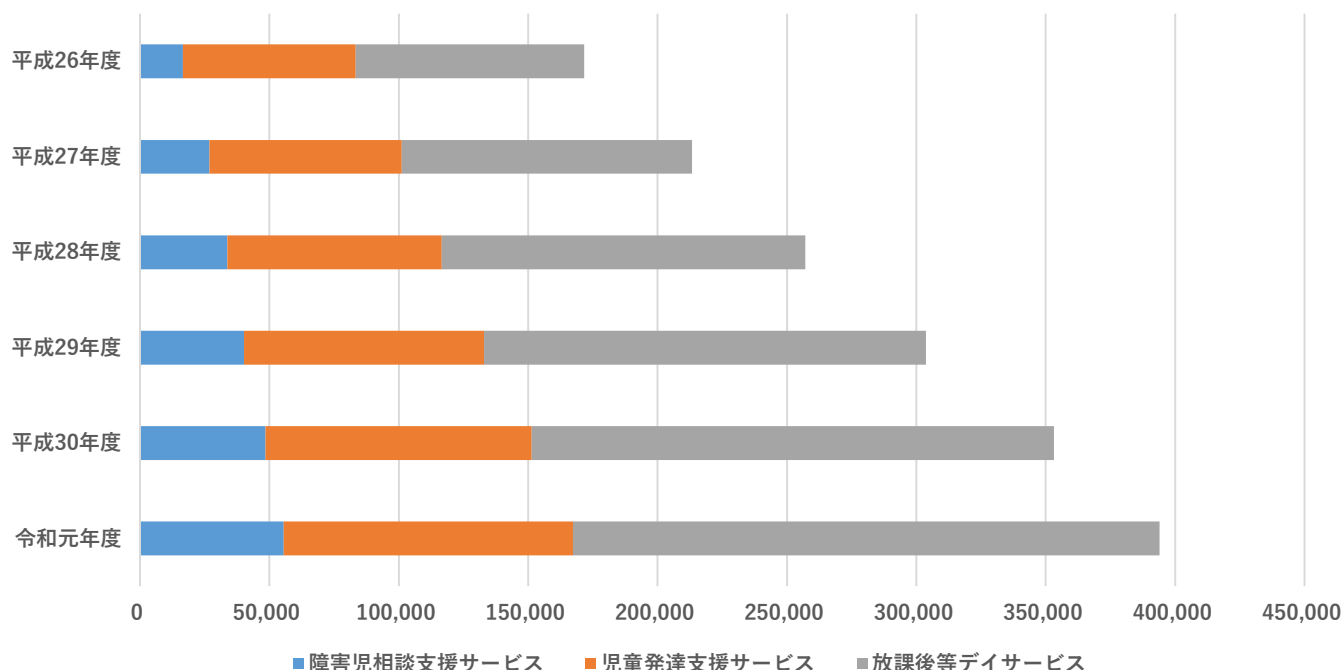
机をがたがたする

指示を理解できない

一人でいることが多い

発達障がいの認知度や理解も徐々に広まり、障がい児サービスの利用者も増加傾向ですが、一方で令和元年度でも全児童に対して1.7%しか利用しておりません。発生頻度等を踏まえるとまだまだ適切なサービスを受けることができずに困っている保護者やこどもが多くいることが予想されます。

障がい児サービスの利用児童数（人）



厚生労働省「障がい児通所支援の現状等について」 <https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000801033.pdf>

発達障がいは、発達の仕方に生まれつき凸凹がある障がいです。  
一人ひとりの特性に応じた理解や支援により、その凸凹は その子ならではの個性となります。

一方で、正しい理解や支援がないままだと困難感を抱えたまま成長し、例えば 知的に遅れがあるわけでもなくとも勉強についていくことができなくなったり、何度も叱られることで自己肯定感が下がってしまったり、相手の感情が理解できないことでいじめる側になったり、逆にいじめられる側になったりと、二次障がい（うつ、不安障がい、引きこもり等）に繋がりがねません。

そういった点でも早期の支援は非常に重要であり、発達障がいの傾向が出やすいと言われる3歳児前後に日常的に関わっている幼稚園・保育園・認定こども園の皆さまの役割というのは非常に大きいと言えます。

# 幼稚園・保育園・認定こども園が 児童発達支援・放課後等デイサービスを始める意義

幼稚園・保育園・認定こども園を設置・運営する皆さまが、**児童発達支援・放課後等デイサービスを開始する意義**について次のように考えております。勝愛学園の大澤氏もおっしゃっておられましたが、**こどもにとっても、保護者にとっても、職員にとっても**まさに「**三方良し**」の事業です。



## 実質的に1：1の個別支援が可能

児童発達支援・放課後等デイサービスの定員は10名で、例えば1日のうち療育時間を分けて、1コマあたりの利用者は1～3名等とすることも可能です。職員は児童発達管理責任者を含めて最低3名、加算を取得する場合は追加で2名ほど配置することが可能ですので、**実質的に1：1の個別支援を実現**することができます。

## 園と連携したスケジュールが組める

午前の子園活動の時間や、午睡の時間（発達障がいのおさんは午睡が苦手だったり、給食後興奮状態になったりすること多い）に児童発達支援で療育を行い、昼食や午睡、自由遊びはクラスのお友達と過ごすことで**お友達との時間も大切にしながら、その子に合った追加支援を提供**することも可能です。



## 職員の業務負担軽減に繋がる

その子に合った支援を提供したいと思っても、3歳児クラス 20:1、4・5歳児クラス 30:1の配置基準では**現実的に難しい**ことが多いです。児童発達支援で療育を受けることでその時間**その子に合った支援を提供**だけでなく、**クラス運営の負担も軽減**される他、療育の効果が出てくることで**集団の中でも落ち着いて過ごしやすくなる**ていきます。

## 園の特色を活かしたプログラムを提供できる

貴園の保育・教育理念や方針に則った**保育・教育プログラム**を、児童発達支援ガイドラインに則って**再設計**することで、**園の特徴・特色を活かした保育・教育プログラムを提供**できます（弊社から紹介させていただく外部プログラムを導入いただくことも可能です）。



## 共働きのご家庭でも利用しやすい

園内や園の近くで実施する場合は**車での送迎は不要**ですし、少し離れた場所に事業所がある場合も**事業所による送迎**（普通自動車等を用いることが多いです）ができれば、**保護者は生活リズムをそのままにこどもに必要な支援を受けさせることができます**。仕事の都合でこどもに療育を受けさせられない、又はこどもの療育の都合で仕事を制限せざるをえない、そういった課題を解決することが可能です。

## キャリアの多様化で採用や定着にも効果大

児童発達支援・放課後等デイサービスの管理者や児童発達管理責任者、指導員等の**新たなキャリアステップを提供**することが可能です。また**これまでの採用活動では出会えなかった人材と出会い、法人が活性化**する効果も期待できます（また近年「こども主体」の保育が注目される中、一人ひとりに合った支援の提供は、視座の高い職員からも注目されやすくなります）。



## 卒園後も支援を継続できる

発達障がい児やグレーゾーンのこどもは、**小学校以降で困難感が強まる傾向**にあると言われていますが、**本園を卒園した後も放課後等デイサービスを通して支援を提供し続ける**ことができます。またその療育効果を確認することで、**幼児期にこういった取り組みが有効なのかを振り返る**こともでき、**園の保育・教育の質向上も期待**できます。





## 昨年、東京・大阪の2会場開催にて 大好評だった本セミナーの オンライン配信が決定！

ご自宅でも、園でも、事務所でも、  
**好きな場所でご視聴いただけます**

▼セミナーでお話させていただくことの一部をご紹介します▼

### 特別ゲスト講座より

- ・児童発達支援・放課後等デイサービス「ひだまり」を立ち上げる前に抱えていた課題や悩み
- ・児童発達支援・放課後等デイサービス「ひだまり」を立ち上げるにあたった経緯
- ・児童発達支援・放課後等デイサービス「ひだまり」で実際に提供している療育内容
- ・児童発達支援・放課後等デイサービス「ひだまり」のデイリースケジュール
- ・児童発達支援・放課後等デイサービス「ひだまり」で見られた療育効果
- ・児童発達支援・放課後等デイサービス「ひだまり」を立ち上げたことによる保護者からの反響
- ・児童発達支援・放課後等デイサービス「ひだまり」を立ち上げたことによる職員からの反響
- ・児童発達管理責任者や、指導員の採用・配置でうまくいったこと・大変だったこと
- ・利用者の募集でうまくいったこと・大変だったこと

### 船井総合研究所講座より

- ・幼保業界の時流と今後の展望
- ・児童発達支援・放課後等デイサービスを開始する前に必ず確認すべき行政ルール
- ・児童発達支援・放課後等デイサービスを立ち上げるまでの実施事項とスケジュール
- ・園との連携力を最大化するためのデイリースケジュールの組み方
- ・園の保育・教育プログラムを独自の療育プログラムにしていく際のポイント
- ・保護者の人気の高い療育プログラムとその内容
- ・児童発達支援・放課後等デイサービスを立ち上げるのに必要な職員と資格
- ・採用活動を開始する前に必ずやっておくべき事前調査
- ・児童発達支援・放課後等デイサービスの設置に必要な設備基準
- ・児童発達支援・放課後等デイサービスのレイアウトイメージ
- ・児童発達支援・放課後等デイサービスの保険収入の仕組みと、収支の考え方
- ・取得すべき児童発達支援・放課後等デイサービスの加算と、その取得方法
- ・収支をより良くする児童発達支援・放課後等デイサービスの定員設定の考え方

※内容に変更等がある場合もございます、予めご了承ください。

### 過去 児童発達支援・放課後等デイサービス 立ち上げセミナーに参加された方の声

事例を含め、大変分かりやすく理解することができました。  
ありがとうございます。

児童発達支援事業所の概要等の説明が分かりやすかった。また、保育園との併設でシナジー効果があると感じました。

実際の療育の様子を見ることができ、大変参考になりました。また、多角化することで保育事業の採用にも良い影響がある、ということも興味深く聞かせて頂きました。参入に向けて、前向きに検討したいと考えています。

近年、当法人でも配慮が必要な子、集団生活に戸惑いを感じている子が多くなってきています。他法人の児童発達支援施設と連携を取りながら支援を進めていますが、連携が難しいところも感じています。当法人が児童発達支援、放課後等デイサービス機能を持つことにより、子どもたちや多くの保護者に対して、より適切な支援を提供できるのではないかとこの思いから今回のセミナーを受講しました。セミナーにて新規参入、運営することの意義、流れの理解へとつながり、今後の運営について考えをまとめる機会となりました。

昨年の4月から指定を受けて事業を始めています。話の内容が具体的にわかりやすかったです。ゲストのお話も当社と重なる部分があり参考になりました。

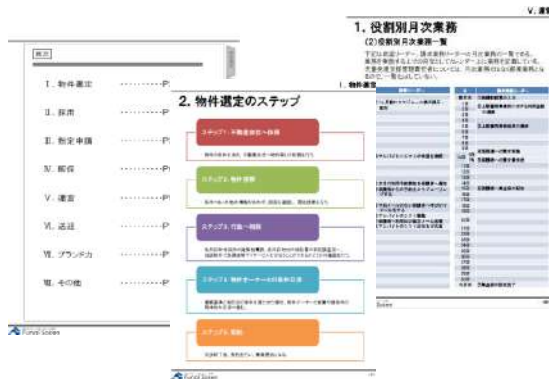
# 実際にゲスト法人も使用したツール類をセミナー講座内でご紹介！



指定申請に必要な書類



契約に必要な書類



初めての障がい福祉サービスも安心！  
障がい福祉サービス重要語彙集

運営の流れがわかる！運営手引書



自事業所に合う人材を採用する  
お仕事説明会マニュアル

自事業所に合う人材を集める  
お仕事説明会チラシ

SNS経由での採用活動に使う  
動画広告



特色を簡潔にわかりやすく  
まとめた三つ折りパンフレット

自事業所の特色がわかりやすい  
パンフレット

説明会時に使用する 保護者向け  
のプレゼン資料

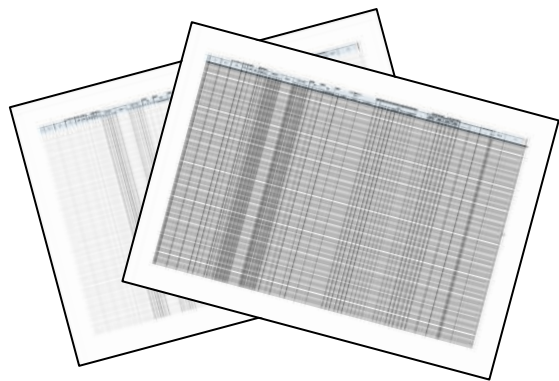
# 実際にゲスト法人も使用したツール類をセミナー講座内でご紹介！



訪問先管理や会話内容までカバー  
広報活動 管理シート

| 項目 | 内容    | 備考 |
|----|-------|----|
| 1  | 訪問先管理 |    |
| 2  | 訪問先管理 |    |
| 3  | 訪問先管理 |    |
| 4  | 訪問先管理 |    |
| 5  | 訪問先管理 |    |
| 6  | 訪問先管理 |    |
| 7  | 訪問先管理 |    |
| 8  | 訪問先管理 |    |
| 9  | 訪問先管理 |    |
| 10 | 訪問先管理 |    |
| 11 | 訪問先管理 |    |
| 12 | 訪問先管理 |    |
| 13 | 訪問先管理 |    |
| 14 | 訪問先管理 |    |
| 15 | 訪問先管理 |    |
| 16 | 訪問先管理 |    |
| 17 | 訪問先管理 |    |
| 18 | 訪問先管理 |    |
| 19 | 訪問先管理 |    |
| 20 | 訪問先管理 |    |

設備整理の不安を解消  
開所時 設備チェックシート



来ていただいた方を大事に  
問い合わせ管理シート



初めてのことで安心！  
各種業務マニュアル



興味を持っていただいた方との連絡ツール  
公式LINE



知ってもらう・来てもらう  
イベントチラシ



事業所のことを知っていただく  
ホームページ



事業所のことを知ってもらう  
Instagram 投稿案

# 児童発達支援・放課後等デイサービス 新規参入セミナー 講演内容＆スケジュールについて

オンラインでの開催となります。

※講座内容は全て同じです。  
ご都合のよい日時を選んでいただきお申込みください。

Web  
開催

2024年

5月22日(水)・30日(木) 6月11日(火)・24日(月)

申込期日:5月18日(土) 申込期日:5月26日(日)

申込期日:6月7日(金) 申込期日:6月20日(木)

※開催時間 13:00~16:00(ログイン開始 12:30~)

本講座はオンライン受講となっております。諸事情により受講いただけない場合がございます。ご了承ください。セミナーご参加方法の詳細は「船井総研 Web 参加」で検索。

一般価格 (1名様) 税込 **27,500円**(税抜 25,000円) 会員価格 (1名様) 税込 **22,000円**(税抜 20,000円)

※会員価格は、各種経営研究会・経営フォーラム、及び社長onlineプレミアムプラン(旧:FUNAIメンバーズPlus)へご入会中のお客様のお申込みに適用となります。

## 第1講座

幼稚園・保育園・認定こども園が児童発達支援・放課後等デイサービスに  
参入する意義=Valueとは

発達障がい児やグレーゾーンのこどもが増える今、幼稚園・保育園・こども園が  
児童発達支援・放課後等デイサービスを始める意義について解説いたします。

株式会社船井総合研究所 子育て支援部 塚本 実和子



## 第2講座

### 特別ゲスト講座

愛媛県松山市で認定こども園を運営する学校法人勝愛学園 副園長 大澤氏を  
お招きし、認定こども園内に児童発達支援・放課後等デイサービスを立ち上げ  
た経緯や実際に提供している療育内容、また立ち上げて良かったこと・大変  
だったことを直接お話しいただきます。

学校法人勝愛学園 副園長 大澤 弘子氏



## 第3講座

### 児童発達支援・放課後等デイサービス 参入成功のポイント

児童発達支援・放課後等デイサービスの制度概要から、立ち上げまでの具体的  
な流れ、また、採用や利用者募集のポイントについて、実際に使ったツール類等  
紹介しながら、解説いたします。

株式会社船井総合研究所 子育て支援部 米倉 百萌花



## 第4講座

### まとめ講座

本日の講座を踏まえて、皆さまにこれから取り組んでいただきたいこと、考えて  
いただきたいことについてお話しいたします。

株式会社船井総合研究所 子育て支援部 リーダー 児玉 梨沙



## セミナーのWEBからのお申込み方法について

スマホ・タブレットの方は、  
右記のQRコードを読み込んでいただき、  
Webページにある申込フォームよりお申込みいただけます。

下記のお申込みHPからも、お申込みいただくことが可能です。

お申込みHP URL <https://www.funaisoken.co.jp/seminar/111088>

※お申込みに関してのよくあるご質問は「船井総研 FAQ」と検索しご確認ください。

※お電話・メールでのセミナーお申込みは承っておりません。

また、お問い合わせの際は「お問い合わせNo.とセミナータイトル」をお伝えください。

**【TEL】0120-964-000(平日9:30~17:30)**



お問い合わせNo

**111088**